

科目区分	専門分野	授業科目	ヘルスアセスメント I
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: ヘルスアセスメントにおける基礎的知識と技術を習得する。 目標: 1 ヘルスアセスメントの必要性とその方法が理解できる。 2 バイタルサイン測定の技術を習得できる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 ヘルスアセスメントの目的・方法	6	1 ヘルスアセスメントとは 1) ヘルスアセスメントの目的 2 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 1) 問診 2) セルフケア能力のアセスメント 3 全身状態・全体印象の把握 ※1 1) 身体計測(身長・体重・腹囲) 2) 全体の概観 4 心理・社会状態のアセスメント	
2 バイタルサイン測定の実際	23	1 バイタルサインの観察 ※1 1) バイタルサインとは 2) バイタルサインの観察の目的 3) 脈拍の観察の実際 (1) 脈拍のアセスメント (2) 脈拍の測定方法 4) 呼吸の観察の実際 (1) 呼吸のアセスメント (2) 呼吸の測定方法 5) 体温の観察の実際 (1) 体温のアセスメント (2) 体温の測定方法 6) 血圧の観察の実際 (1) 血圧のアセスメント (2) 血圧の測定方法 7) 意識の観察の実際 (1) GCSとJCS	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、技術試験※2、レポート、参加状況・態度等		
テキスト	医学書院 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術 I 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 メディックメディア 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント		
参考資料			
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習は積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。		
備考	※1は演習を行う。 演習では、身体計測・バイタルサインの測定(体温・脈拍・呼吸・血圧)を行う。 ※2の技術試験では、バイタルサインの測定を実施する。		

科目区分	専門分野	授業科目	ヘルスアセスメントⅡ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: ケアにいかすフィジカルアセスメントを実施するための基礎的知識と技術を習得する。</p> <p>目標: 1 器官・系統別のフィジカルアセスメントの方法が理解できる。</p> <p>2 フィジカルアセスメントの進め方や適切なアセスメントにつながる考え方を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 フィジカルアセスメントの基本技術	20	<p>1 呼吸器のフィジカルアセスメント ※1</p> <p>1) 自覚症状、呼吸器疾患に関連した他覚症状・徴候の確認</p> <p>2) 胸郭の視診・触診</p> <p>3) 呼吸音の聴取(聴診)</p> <p>4) 胸部の打診</p> <p>5) 確認すべき検査所見</p> <p>6) 事例における呼吸器系のフィジカルアセスメント</p> <p>2 循環器系のフィジカルアセスメント ※1</p> <p>1) 自覚症状の確認</p> <p>2) 循環器系の視診・触診</p> <p>3) 聴診</p> <p>4) 事例における循環器系のフィジカルアセスメント</p> <p>3 腹部のフィジカルアセスメント ※1</p> <p>1) 自覚症状の確認</p> <p>2) 腹部の視診・聴診・打診・触診</p> <p>3) 事例における腹部のフィジカルアセスメント</p> <p>4 筋・骨格系のフィジカルアセスメント ※1</p> <p>1) 自覚症状の確認</p> <p>2) 関節可動域の観察</p> <p>3) 徒手筋力テスト</p> <p>4) 関節可動域測定・徒手筋力テストから ADL をアセスメントする</p> <p>5) 事例における筋・骨格系のフィジカルアセスメント</p> <p>5 神経系のフィジカルアセスメント ※1</p> <p>1) 自覚症状の確認</p> <p>2) 運動機能の評価</p> <p>3) 感覚機能の評価</p> <p>4) 反射</p> <p>5) 脳神経とその機能</p>	
2 フィジカルレイグザミネーションの実際	9	1 フィジカルレイグザミネーションを用いた初期把握のための情報収集と解釈 ※2	
	1	試験	
評価方法		筆記試験、レポート、参加状況・態度等	

テキスト 参考資料	医学書院 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術 I メディックメディア 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習は積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備考	※1、2は演習を行う。 演習では、フィジカルイグザミネーションの基本的な手技を行う。またフィジカルイグザミネーションの実際には、事例をもとに、フィジカルイグザミネーションを用いて初期把握のために必要な情報収集と解釈を行う。